Kunugi					
H.					
Colroi V I/vmano	Cerebral glucose	NI	16(9)	007	2005
Sakai Y, Kumano H, Nishikawa		Neuroreport.	10(3)	927-	2005
				31	
M, Sakano Y,					
Kaiya H,	panic disorder.				
Imabayashi E,					
Ohnishi T,					
Matsuda H,					
Yasuda A, Sato					
A, Diksic M,					
Kuboki T.					
			,		
Tadokoro K,	The Gem interacting	Neurogenetics	6(3.	127-	2005
Hashimoto R,		,		33	
Tatsumi M,	associated with major				
Kosuga A,	depressive disorder				
Kamijima K,					
Kunugi H,					
Tanaka K,	Psychostimulant-induced	J Neurosci	26(1	5091	2006
Shintani N,			9)	-509	
Hashimoto H,	hyperactivity and prepulse			7	
Kawagishi N,	inhibition deficits in				
Ago Y,	Adcyap1-deficient mice.,				
Matsuda T,					
Hashimoto R,					
Kunugi H,					
Yamamoto A,					
Kawaguchi C,					
Shimada T,					
Baba A.					
Ando T, Komaki	Possible role of	Am J Med	18;1	929-	2006
G, Naruo T,	preproghrelin gene	Genet B	41B(934	

Obobs IZ Mili		XT 1 ·	0)		
Okabe K, Takii		Neuropsychia	8)		
M, Kawai K,	susceptibility to bulimia	tr Genet.			
Konjiki F, Takei	nervosa.				
M, Oka T,					
Takeuchi K,					
Masuda A, Ozaki					
N, Suematsu H,					
Denda K,					
Kurokawa N,					
Itakura K,					
Yamaguchi C,					
Kono M, Suzuki					
T, Nakai Y,					
Nishizono-Maher					
A, Koide M,					
Murakami K,					
Nagamine K,					
Tomita Y,					
Ookuma K,					
Tomita K, Tonai					
E, Ooshima A,					
Ishikawa T,					
Ichimaru Y.					
Ando T, Hashiro	Development and	J Dermatol.	33(7)	439-	2006
M, Noda K,	validation of the			50	
Adachi J, Hosoya	psychosomatic scale for				
R, Kamide R,	atopic dermatitis in adults.				
Ishikawa T,					
Komaki G.					
Moriguchi Y,	Impaired self-awareness	Neuroimage	32(3)	1472	2006
Ohnishi T,	and theory of mind: an	0	, ,	-82.	
Lane RD,	fMRI study of mentalizing				
Maeda M,	in alexithymia.				
Mori T,					
Nemoto K,					
TACHIOLO IZ,				L	

Moriguchi Y, Empathy and Judging Other's Pain: An fMRI Corebral Cortex	Matsuda H,					
Moriguchi Y, Decety J, Other's Pain: An fMRI cortex	•					
Decety J, Ohnishi T, Study of Alexithymia. in press. cortex よい 大規模サンプルを用いた。アレートの大学、大規模サンプルを用いた。アレートの大学、大規模サンプルを用いた。アレートの大学を表現では、小牧元. かり 場場 との試み. 2006 名名 との対力を発生の表現で、アレートの大学を表現で、大規模サンプルを用いた。アレートの大学を対する年齢の影響の検討。 本の対力・スルの解析. かり 場場 との対力・スルの解析. 本の対力・スルの解析. 本の対力・スルの形力・スルの解析. 本の対力・スルの形力・ス		Empathy and Judging	Cerebral			
Ohnishi T, Maeda M, Mori T, Nemoto K, Matsuda H, Komaki G. 要年期女性患者へのヨーガ療 心身医学 46巻 840-2006 9号 841 2006 9号 841 山田久美子, 送裕美子, 廣瀬一浩, 石川俊男, 小牧元. 大規模サンブルを用いた,アレキシサイミアに対する年齢の 影響の検討. 心身医学 46巻 599 2006 6号 841 安藤哲也, 成尾鉄 朗, 同部憲二郎, 満井正人, 河合客外介, 武井美智子, 岡孝和, 竹内香織, な倉康太郎, 山口力, 河野政樹, 増田彰則, 石川俊男, 庄子雅保, 近喰ふじ子, 小牧元. 板漁 大郎, 山口力, 河野政樹, 増田彰則, 石川俊男, 庄子雅保, 近喰ふじ子, 小牧元. 心身医学 46巻 6号 849 2006 6号 849 安藤哲也, 小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構 摂食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 心身医学 46巻 6号 6号 849 2006 6号 849 守口善也, 前田基成, 小牧元. 情動形成とその異常の脳内機 精情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害 心身医学 46巻 6号 2006 6号 849 2006 6号 849						
Maeda M, Mori T, Nemoto K, Matsuda H, Komaki G. 山田久美子, 辻裕美子, 廣瀬一浩, 石川俊男, 小牧元. 守口善也, 前田基成, 小牧元. 安藤哲也, 成尾鉄 朗, 岡部窓二郎, 満井美智子, 岡孝和, 竹内香織, 放倉康太郎, 山力, 河野政樹, 増田彰則, 石川俊男, 正子雅保, 近喰ふじ子, 小牧元. 安藤哲也, 小牧元. 宏藤哲也, 小牧元. 宏藤哲也, 小牧元. 宏藤哲也, 小牧元. 別書の罹患感受性におけるグレリン遺伝子多型の役割とそのメカニズムの解析. 安藤哲也, 小牧元. 安藤哲也, 小牧元. 大規模サンブルを用いた,アレキシサイミアに対する年齢の影響の検討. な倉康舎の罹患感受性におけるグレリン遺伝子多型の役割とそのメカニズムの解析. 安藤哲也, 小牧元. 安藤哲也, 小牧元. た子雅保, 近喰ふじ子, 小牧元. 安藤哲也, 小牧元. お食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 「中口善也, 前田基成, 小牧元. 情動形成とその異常の脳内機構情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害 小 大きない 本質における食が、体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 小り医学 46巻 6号 2006 6号 2006 6号 6号 2006 6号 6号 2006 6号 2			Cortex			
T, Nemoto K, Matsuda H, Komaki G. 山田久美子, 辻裕美子, 廣瀬一浩, 石川俊男, 小牧元. 守口善也, 前田基成, 小牧元. 宗藤哲也, 成尾鉄制, 岡部憲二郎, 満井正人, 河合啓介, 武井美智子, 岡孝和, 竹内香織, 板倉康太郎, 山口力, 河野政樹, 増田彰則, 石川俊男, 庄子雅保, 近喰ふじ子, 小牧元. 宏藤哲也, 小牧元. 肥満・摂食障害の発息感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 中口善也, 前田基成, 小牧元. 小牧元. に子, 小牧元. に子, 小牧元. に守口善也, 前田基成, 小牧元. おきない 体型調節を含された。 い身医学 は 2006 を 3 との8 との8 との8 との8 との9	1					
Matsuda H, Komaki G. 山田久美子, 辻裕 美子, 廣瀬一浩, 右川俊男, 小牧元. 守口善也, 前田基 成, 小牧元. 安藤哲也, 成尾鉄 朗, 岡部憲二郎, 満上正人, 河合啓介, 武井美智子, 岡孝和, 竹内香織, 板倉康太郎, 山口力, 河野政樹, 増田彰則, 石川俊男, 庄子雅保, 近喰ふじ子, 小牧元. 安藤哲也, 小牧元. 上満・摂食障害の帰患感受性における分と別から、アレッカーで、アレッカーで、アレッカーで、アレッカーで、アレッカーで、アレッカーで、アルカーで、		press.			:	
Komaki G. 関年期女性患者へのヨーガ療 心身医学 46 巻 840 2006 美子,廣瀬一浩, 法の試み。 一次の試み。 一次の試み。 一次の試み。 一次の試み。 一次の試み。 一次の試み。 一次のでは、小牧元。 一次のでは、小牧元・ 一次のでは、小教元・ 一次のでは、かんでは、小教元・ 一次のでは、小教元・ 一次のでは、小教元・ 一次のでは、小教元・ 一次のでは、小教元・ 一						
世田久美子、辻裕 美子、廣瀬一浩、石川俊男、小牧元. フローガ療 法の試み. フローガ療 法の試み. フローガ療 法の試み. フローガ療 法の試み. フローガ療 法の試み. フローガ療 法の試み. フローガーを用いたアレー シリー・シサイミアに対する年齢の 影響の検討. フタ藤哲也、成尾鉄 朗、岡部憲二郎、 財会が上そのメカニズムの解析. フローカ、河野政樹、増田彰則、石川俊男、庄子雅保、近喰ふじ子、小牧元. アテー アー 学也、前田基成、小牧元. 配満・摂食障害の行子機構 摂食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. でり医学 46巻 6号 2006 6号 7日 フローカ・アー等也、前田基成、小牧元. 根満 情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害 心身医学 46巻 469 2006 6号 7日 では、小牧元. おりまた。 フローカ・アー等と、前の表に対している。 マローカ・アー では、中央に対している。 マローカ・アー・フローカー・フローカー・フローカー・フローカー・フローカー・フローカ・アー・フローカー・フ	,					
美子,廣瀬一浩, 石川俊男, 小牧元. 法の試み. 9号 841 守口善也, 前田基成, 小牧元. 大規模サンプルを用いた,アレキシサイミアに対する年齢の影響の検討. 心身医学 46巻 599 2006 6号 89 2006 6号 89 安藤哲也, 成尾鉄朗, 岡部憲二郎, 湖土正人, 河合啓介, 武井美智子, 岡孝和, 竹内香織, 板倉康太郎, 山口力, 河野政樹, 増田彰則, 石川俊男, 庄子雅保, 近喰ふじ子, 小牧元. 割とそのメカニズムの解析. 小身医学 6号 6号 89 46巻 6号 89 安藤哲也, 小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構摂食障害の分子機構摂食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 心身医学 46巻 6号 89 484 2006 6号 89 守口善也, 前田基成, 小牧元. 情動形成とその異常の脳内機構情動と心身相関の Black Box に迫る情動認知の障害 心身医学 6号 89 46巻 469 2006 6号 89	itomaki G.					
美子,廣瀬一浩, 石川俊男, 小牧元. 法の試み. 9号 841 守口善也, 前田基成, 小牧元. 大規模サンプルを用いた,アレキシサイミアに対する年齢の影響の検討. 心身医学 46巻 599 2006 6号 89 2006 6号 89 安藤哲也, 成尾鉄朗, 岡部憲二郎, 湖土正人, 河合啓介, 武井美智子, 岡孝和, 竹内香織, 板倉康太郎, 山口力, 河野政樹, 増田彰則, 石川俊男, 庄子雅保, 近喰ふじ子, 小牧元. 割とそのメカニズムの解析. 小身医学 6号 6号 89 46巻 6号 89 安藤哲也, 小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構摂食障害の分子機構摂食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 心身医学 46巻 6号 89 484 2006 6号 89 守口善也, 前田基成, 小牧元. 情動形成とその異常の脳内機構情動と心身相関の Black Box に迫る情動認知の障害 心身医学 6号 89 46巻 469 2006 6号 89	山田久美子, 辻裕		心身医学	46 巻	840-	2006
 石川俊男, 小牧元. 守口善也, 前田基成, 小牧元. 大規模サンプルを用いた,アレキシサイミアに対する年齢の影響の検討. 安藤哲也, 成尾鉄閉, 岡部憲二郎, 湘井正人, 河合啓介, 武井美智子, 岡孝和, 竹内香織, 板倉康太郎, 山口力, 河野取樹, 増田彰則, 石川俊男, 庄子雅保, 近喰ふじ子, 小牧元. 安藤哲也, 小牧元. 股満・接食障害の分子機構接食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 守口善也, 前田基成, 付助形成とその異常の脳内機構育動と心身相関の Blackの成, 小牧元. 中国・新田本の財子の場合を表現の一般を表現の一般である。 中国・グレリン遺伝子多型の解析。 中国・グレリン遺伝子の異常の脳内機構育動と心身相関の Blackの成, 小牧元. 中国・新田本の関連を表現の一般である。 中国・大規模サンプルを用いた,アレー・シャイミアに対する年齢のよります。 ・ は名巻を表現の経済を表現の経済を表現の経済を表現しています。 ・ は名巻を表現の経済を表現しています。 ・ は名巻を表現の経済を表現しています。 ・ は名巻を表現の経済を表現しています。 ・ は名巻を表現しています。 ・ は名を表現しています。 ・ はるを表現しています。 ・ はるを表現していまする。 ・ はるを表現しています。 ・ はるを表現していまする。	· ·		,			2000
中口善也, 前田基成, 小牧元. 大規模サンプルを用いた,アレキシサイミアに対する年齢の影響の検討. と療酵也, 成尾鉄朗, 岡部憲二郎, 満井正人, 河合啓介, 武井美智子, 岡孝和, 竹内香織, 板倉康太郎, 山口力, 河野政樹, 増田彰則, 石川俊男, 庄子雅保, 近喰ふじ子, 小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構摂食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 小身医学 46巻 6号 6号 6号 700 2006 6号 6号 700 2006					011	
成, 小牧元. キシサイミアに対する年齢の 影響の検討. 安藤哲也, 成尾鉄 財食障害の罹患感受性にお けるグレリン遺伝子多型の役 割とそのメカニズムの解析. か身医学 46巻 6号 100 2006						
成, 小牧元. キシサイミアに対する年齢の 影響の検討. 安藤哲也, 成尾鉄 朗, 岡部憲二郎, 満井正人, 河合啓 介, 武井美智子, 岡孝和, 竹内香織, 板倉康太郎, 山口力, 河野政樹, 増 田彰則, 石川俊男, 庄子雅保, 近喰ふじ子, 小牧元. 肥満・摂食障害の発患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. や身医学 46巻 6号 484 2006 6号 6号 70 を藤哲也, 小牧元. 情動形成とその異常の脳内機 構 情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害 心身医学 46巻 6号 2006	守口善也, 前田基	大規模サンプルを用いた,アレ	心身医学	46 巻	599	2006
安藤哲也,成尾鉄 朗,岡部憲二郎, 瀧井正人,河合啓 介,武井美智子, 岡孝和,竹内香織, 板倉康太郎,山口 力,河野政樹,増 田彰則,石川俊男, 庄子雅保,近喰ふ じ子,小牧元. 安藤哲也,小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構 摂食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 守口善也,前田基成,小牧元. 情動形成とその異常の脳内機 成,小牧元. 情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害	成, 小牧元.	キシサイミアに対する年齢の		6号		
朗,岡部憲二郎, 瀧井正人,河合啓 介,武井美智子, 岡孝和,竹内香織, 板倉康太郎,山口 力,河野政樹,増 田彰則,石川俊男, 庄子雅保,近喰ふ じ子,小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構 摂食障害の罹患感受性にお ける食欲・体重調節物質の役 割・グレリン遺伝子多型の解 析. 守口善也,前田基 成,小牧元. 情動形成とその異常の脳内機 構、情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害		影響の検討.				
 離井正人,河合啓介,武井美智子,岡孝和,竹内香織,板倉康太郎,山口力,河野政樹,増田彰則,石川俊男,庄子雅保,近喰ふじ子,小牧元. 安藤哲也,小牧元. 貯満・摂食障害の分子機構摂食障害の分子機構摂食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 守口善也,前田基成,小牧元. 特動形成とその異常の脳内機構育動と心身相関のBlack的ない。 株育動と心身相関のBlack的ない。 日本のメカニズムの解析. 本名をできるでは、かりを学ります。 本名をできるでは、かりを学ります。 本名をできるでは、かります。 本名をできるでは、かります。 本名をできるでは、かります。 本名をできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	安藤哲也, 成尾鉄	摂食障害の罹患感受性にお	心身医学	46 巻	549	2006
介,武井美智子, 岡孝和,竹内香織, 板倉康太郎,山口力,河野政樹,増 田彰則,石川俊男, 庄子雅保,近喰ふじ子,小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構 心身医学 46巻 6号 接食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. でり下垂也,前田基 情動形成とその異常の脳内機 内 たりを学 46巻 469 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を	朗, 岡部憲二郎,	けるグレリン遺伝子多型の役		6号		
岡孝和, 竹内香織, 板倉康太郎, 山口 力, 河野政樹, 増 田彰則, 石川俊男, 庄子雅保, 近喰ふ じ子, 小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構 摂食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 守口善也, 前田基 成, 小牧元. 情動形成とその異常の脳内機 成, 小牧元. 構 情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害	瀧井正人,河合啓	割とそのメカニズムの解析.				
板倉康太郎,山口 力,河野政樹,増 田彰則,石川俊男, 庄子雅保,近喰ふ じ子,小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構 摂食障害の罹患感受性にお ける食欲・体重調節物質の役 割・グレリン遺伝子多型の解 析. や口善也,前田基 成,小牧元. 情動形成とその異常の脳内機 成,小牧元. 情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害	介,武井美智子,					
力, 河野政樹, 増 田彰則, 石川俊男, 庄子雅保, 近喰ふ じ子, 小牧元.肥満・摂食障害の分子機構 摂食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析.心身医学46巻 6号484 6号2006守口善也, 前田基 成, 小牧元.情動形成とその異常の脳内機 構 情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害心身医学46巻 6号4692006	岡孝和,竹内香織,					
田彰則, 石川俊男, 庄子雅保, 近喰ふ じ子, 小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構 摂食障害の罹患感受性にお ける食欲・体重調節物質の役 割・グレリン遺伝子多型の解 析. や口善也, 前田基 成, 小牧元. 情動形成とその異常の脳内機 成, 小牧元. 構情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害	板倉康太郎, 山口					
庄子雅保, 近喰ふ じ子, 小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構 摂食障害の罹患感受性にお ける食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 心身医学 46 巻 6 号 484 2006 守口善也, 前田基成, 小牧元. 情動形成とその異常の脳内機 構 情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害 心身医学 46 巻 6 号 469 2006	力,河野政樹,增					
じ子, 小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構 摂食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 心身医学 46巻 6号 484 2006 守口善也, 前田基成, 小牧元. 情動形成とその異常の脳内機 情動と心身相関の Black Box に迫る情動認知の障害 心身医学 46巻 469 6号 2006	田彰則, 石川俊男,			:		
安藤哲也, 小牧元. 肥満・摂食障害の分子機構 心身医学 46巻 484 2006 接食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. ペ身医学 46巻 469 2006 横 情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害	庄子雅保, 近喰ふ					
摂食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 守口善也, 前田基 情動形成とその異常の脳内機成, 小牧元. 構情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害	じ子, 小牧元.					
摂食障害の罹患感受性における食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 守口善也, 前田基 情動形成とその異常の脳内機成, 小牧元. 構情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害						
ける食欲・体重調節物質の役割・グレリン遺伝子多型の解析. 守口善也, 前田基 情動形成とその異常の脳内機 心身医学 46巻 469 2006 成, 小牧元. 構 情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害	安藤哲也, 小牧元.	肥満・摂食障害の分子機構	心身医学	46 巻	484	2006
割-グレリン遺伝子多型の解析. 析. 守口善也,前田基成, 前田基成, 小牧元. 情動形成とその異常の脳内機 水身医学 46 巻 469 6 号 6 号 6 号 6 号 6 号 6 号 6 号 6 号 6 号 6		摂食障害の罹患感受性にお		6号		
析.析.一点一点上点守口善也,前田基 成,小牧元.情動形成とその異常の脳内機 成,小牧元.心身医学 46巻 469 2006 6号		ける食欲・体重調節物質の役				
守口善也, 前田基情動形成とその異常の脳内機 成, 小牧元.心身医学 構 情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害46巻 6号469 6号		割-グレリン遺伝子多型の解				
成, 小牧元. 構 情動と心身相関の Black Box に迫る 情動認知の障害 6 号		析.				
Box に迫る 情動認知の障害	守口善也, 前田基	情動形成とその異常の脳内機	心身医学	46 巻	469	2006
	成, 小牧元.	構 情動と心身相関の Black		6号		
(アレキシサイミア)と他者理解		Box に迫る 情動認知の障害				
		(アレキシサイミア)と他者理解				

	に関する脳機能画像研究.				
安藤哲也, 小牧元.	【神経性食欲不振症の今日的	ホルモンと臨床	54 巻	343-	2006
	 問題点】 摂食障害の遺伝子		4号	351	
	解析.				
可知悠子, 前田基	摂食障害患者におけるアレキ	心身医学	46 巻	215-	2006
成,笹井惠子,	シサイミアの特徴		3 号	222	
後藤直子,守口					
善也,庄子雅					
保,廣山夏生,					
瀧井正人, 石川					
俊男, 小牧					
元.					
橋本亮太、安田由	気分安定薬の作用メカニズム	こころの科学	131.	47-5	2007
華、大井一高、				2	
武田雅俊、.,					
橋本亮太、沼川忠	統合失調症:分子から治療ま	脳21	8(1)	29-3	2005
広、矢ケ崎有	で、統合失調症の病態とディ			3	
希、岡田武也、	スバインジン				
服部聡子、千葉					
幸恵、功刀浩,					
橋本亮太、沼川忠	Dysbindin (DTNBP1)	分子精神医学	5(4),	64-6	2005
広、矢ケ崎有				5	
希、服部聡子、					
千葉幸恵、岡田					
武也、功刀浩					
橋本亮太、大井一	内科医のための脳疾患講座、	Brain Medical	18(4)	382-	2006
高、安田由華、	統合失調症その1			387	
武田雅俊					
炼 卡宣士	公人と調応則主要にフリッ	DV L VE TO T	45(4)	07 1	0000
橋本亮太	統合失調症関連遺伝子とその	脳と精神の医	17(1)	37-4	2006
炼大 <u>官</u> 士 杂四畔	機能.	学, PV 01	0(4):	6	0000
橋本亮太、武田雅 俊.	統合失調症は神経変性疾患	脳 21	9(4):	409-	2006
	か?神経生化学的観点から	BW 01	0(4)	412	0000
橋本亮太、武田雅	統合失調症は神経変性疾患	脳 21,	9(4).	390-	2006
俊	か?			393,	

橋本亮太.	統合失調症脆弱性遺伝子	Congress	p14,	2005
	 dysbindin の機能に関する新	Reports:	-	
	 たな知見	Psychiatry		
Topological statements		Today,		
		Supplements		
		II.		
武田雅俊、田中稔	精神と未病	未病医学入門	98-1	2006
久、橋本亮太		臨床、金芳堂	02	

Advance Access published on September 7, 2006

Impact of the DISC1 Ser704Cys polymorphism on risk for major depression, brain morphology and ERK signaling

Ryota Hashimoto^{1,2,3,*,†}, Tadahiro Numakawa^{3,†}, Takashi Ohnishi^{3,4,†}, Emi Kumamaru³, Yuki Yagasaki³, Tetsuya Ishimoto⁵, Takeyuki Mori^{3,4}, Kiyotaka Nemoto⁴, Naoki Adachi³, Aiko Izumi³, Sachie Chiba^{2,6}, Hiroko Noguchi³, Tatsuyo Suzuki⁷, Nakao Iwata⁷, Norio Ozaki⁸, Takahisa Taguchi⁵, Atsushi Kamiya⁹, Asako Kosuga¹⁰, Masahiko Tatsumi¹⁰, Kunitoshi Kamijima¹⁰, Daniel R. Weinberger¹¹, Akira Sawa^{12,13} and Hiroshi Kunugi³

¹The Osaka-Hamamatsu Joint Research Center For Child Mental Development and ²Department of Psychiatry, Osaka University Graduate School of Medicine, D3, 2-2 Yamadaoka, 4-1-1 Suita, Osaka 565-0871, Japan, 3Department of Mental Disorder Research, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry, Kodaira, Tokyo, Japan, ⁴Department of Radiology, National Center Hospital of Mental, Nervous, and Muscular Disorders, National Center of Neurology and Psychiatry, Kodaira, Tokyo, Japan, ⁵Neuronics R.G. Special Division for Human Life Technology, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Ikeda, Osaka, Japan, 6Department of Biotechnology and Life Science, Tokyo University of Agriculture and Technology, Koganei, Tokyo, Japan. ⁷Department of Psychiatry, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake, Aichi, Japan, ⁸Department of Psychiatry, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Aichi, Japan, ⁹Department Psychiatry, Johns Hopkins University, Baltimore, MD, USA, ¹⁰Department of Psychiatry, Showa University School of Medicine, Tokyo, Japan, ¹¹Genes, Cognition and Psychosis Program, Clinical Brain Disorders Branch, National Institute of Mental Health, National Institutes of Health, Bethesda, MD, USA and ¹²Department of Psychiatry and ¹³Department of Neuroscience, Program in Cellular Molecular Medicine, Johns Hopkins University School of Medicine, Baltimore, MD, USA

Received May 22, 2006; Revised August 8, 2006; Accepted September 4, 2006

Disrupted-in-schizophrenia 1 (DISC1), identified in a pedigree with a familial psychosis with the chromosome translocation (1:11), is a putative susceptibility gene for psychoses such as schizophrenia and bipolar disorder. Although there are a number of patients with major depressive disorder (MDD) in the family members with the chromosome translocation, the possible association with MDD has not yet been studied. We therefore performed an association study of the DISC1 gene with MDD and schizophrenia. We found that Cys704 allele of the Ser704Cys single-nucleotide polymorphism (SNP) was associated with an increased risk of developing MDD (P = 0.005, odds ratio = 1.46) and stronger evidence for association in a multi-marker haplotype analysis containing this SNP (P = 0.002). We also explored possible impact of Ser704Cys on brain morphology in healthy volunteers using MR imaging. We found a reduction in gray matter volume in cingulate cortex and a decreased fractional anisotropy in prefrontal white matter of individuals carrying the Cys704 allele compared with Ser/Ser704 subjects. In primary neuronal culture, knockdown of endogenous DISC1 protein by small interfering RNA resulted in the suppression of phosphorylation of ERK and Akt, whose signaling pathways are implicated in MDD. When effects of sDISC1 (Ser704) and cDISC1 (Cys704) proteins were examined separately, phosphorylation of ERK was greater in sDISC1 compared with cDISC1. A possible biological mechanism of MDD might be implicated by these convergent data that Cys704 DISC1 is associated with the lower biological activity on ERK signaling, reduced brain gray matter volume and an increased risk for MDD.

^{*}To whom correspondence should be addressed. Tel: +81 668793074; Fax: +81 668793059; Email: hashimor@psy.med.osaka-u.ac.jp [†]The authors wish it to be known that, in their opinion, the first three authors should be regarded as joint First Authors.

[©] The Author 2006. Published by Oxford University Press. All rights reserved. For Permissions, please email: journals.permissions@oxfordjournals.org

INTRODUCTION

The disrupted-in-schizophrenia 1 (DISC1) gene was initially identified at the breakpoint of a balanced translocation (1,11)(q42.1;q14.3), which segregated with major mental disorders in a large Scottish family (1). In this family, patients with schizophrenia, bipolar disorder and recurrent major depressive disorder (MDD) had been identified as carriers of the translocation (1,2). Subsequent genetic studies in several independent populations, including association and linkage studies, have also suggested that the DISC1 gene may be implicated in both schizophrenia and bipolar disorder (3-10). Previous studies suggest that genetic variations within the DISC1 gene, which increase risk for schizophrenia, are associated with the cerebral cortical gray matter and hippocampal volumes and function (9,11,12). However, no association study between the DISC1 gene and MDD has not yet been reported, despite there are more patients with MDD than those with schizophrenia in the original Scottish family members with translocation.

DISC1 is a multi-functional protein. Several research groups have identified DISC1 interacting proteins, which are associated with the components of the cytoskeleton and centrosome, such as dynein, Nudel, elongation protein zeta-1, etc. (13–18). DISC1 plays critical roles on the cerebral cortex development via microtubular dynamics and the DISC1-dynein complex (13). Another function of DISC1 may be modulation of cAMP signaling via an interaction with phosphodiesterase 4B, which also has been found to be disrupted by a balanced translocation in a patient with schizophrenia (19). Other functions of DISC1, including the mitochondrial and nuclear related functions, have also been suggested (15,20,21).

Here, we report an association of the genetic variations of DISC1, including Ser704Cys (rs821616) single-nucleotide polymorphism (SNP) and MDD. The risk allele (Cys704) for MDD is associated with the reduced gray matter volume and fractional anisotropy (FA) in prefrontal white matter in healthy subjects. Furthermore, the risk allele is linked to lower ERK activity (extracellular signal-regulated kinase), which has been suggested to have a role in the pathophysiology in MDD.

RESULTS

Association between the genetic variants of the DISC1 gene and major depression

We examined possible association between genetic variants in the DISC1 gene, including Ser704Cys SNP and MDD or schizophrenia. We genotyped 13 SNPs to cover the DISC1 locus at an average density of 31 kb. We found a significant association between genetic variations in DISC1 and MDD (Table 1). The Cys allele frequency of SNP12 (Ser704Cys) was greater in patients with MDD when compared with controls ($\chi^2 = 7.88$, df = 1, P = 0.005, odds ratio = 1.46, 95% CI 1.12-1.92). There was a weak evidence for an association with SNP1 (P = 0.048). As previous association studies of the DISC1 gene applied three-marker haplotype analysis (4,8,9), we performed this analysis. Consistent with the

individual marker results, the three marker haplotypes containing SNPs 11-13 were associated with MDD: SNP11 (G allele) – SNP12(Cys) – SNP13(C allele) (P = 0.002; Table 2). When we examined the association between genetic variations of DISC1 and schizophrenia, a weak evidence for association was observed with SNP7 (P = 0.0496), whereas SNP12 (Ser704Cys) was not significantly associated with schizophrenia (Table 1). Because a prior study reported sexdependent effects on association with schizophrenia (4), we examined males and females separately. This analysis revealed stronger evidence for association with SNP9 in female patients with schizophrenia (P = 0.0088), but no association in male subjects, whereas a prominent gender effect was not found in MDD (Table 3). Three marker haplotypes were not associated with schizophrenia (data not shown). SNP12 showed a strong linkage disequilibrium (LD) with SNP10 and SNP11, moderate LD with SNP1 and SNP13 and weak LD with SNP6 in controls, and similar LD results were obtained in MDD and schizophrenia (Supplementary Material, Tables S1-S3). LD pattern of our data was similar to that of HapMap database in the Japanese population. Our results suggest that DISC1 is associated with MDD and with schizophrenia and that Ser704Cys SNP, in particular, is associated with MDD in our sample.

Effects of the DISC1 Ser704Cys polymorphism on in vivo brain structure

As the abnormalities in the brain gray matter volume and white matter microstructure have been implicated in the biology of mood disorders and schizophrenia (22,23), we examined the possible effects of the Ser704Cys SNPs and other associated SNPs with schizophrenia on brain structure in healthy subjects (demographic information for Ser704Cys, Table 4). We found a bilateral (left dominant) reduction in the gray matter volume in the anterior cingulate cortex (ACC) [Brodmann area (BA) 24, Talairach coordinates x, y, z = -6, 27, 17, respectively, t = 3.58], cingulate gyrus (BA24, Talairach coordinates x, y, z = 0, 3, 34, respectively, t = 3.7) and the posterior cingulate gyrus (BA31, Talairach coordinates x, y, z = -9, -39, 36, respectively, t = 3.39) in cys-DISC1 carriers (cys/cys and cys/ser) compared with ser/ ser-DISC1 individuals by tensor-based morphometry (TBM) analysis (Fig. 1, upper panel). When we analyzed the effect of this SNP on brain morphology in the other direction (i.e. cys > ser), we found a significant reduction in the volumes of the lateral ventricle, interhemispheric fissure and the bilateral Sylvian fissure in ser/ser-DISC1 individuals compared with cys-DISC1 carriers (Fig. 1, lower panel). This finding suggests that cys-DISC1 carriers have expanded cerebrospinal fluid (CSF) space compared with ser/ser-DISC1 individuals, possibly consistent with our finding that cys carriers in our analysis have reductions in tissue volume measures. We did not detect significant differences in hippocampal volume related to this DISC1 polymorphism with even at a lenient threshold at P < 0.05. In comparison with ser/ser-DISC1 individuals, cys-DISC1 carriers demonstrated a significantly decreased FA value in the frontal white matter (P < 0.001)(Fig. 2). The reversed contrast, i.e. increased FA in cys-DISC1 carriers, was not observed even at the level of

Table 1. Allele distributions for 13 SNPs in the DISCI gene in patients with MDD, those with schizophrenia and controls

SNP	dbSNP	Distance	Major/minor	Amino acid	Controls	MDD			SZ		
		from SNPI	polymorphism	substitution	n = 717	n = 373	P-value	OR	n = 658	P-value	OR
1	rs6541281		C/T		0.122	0.094	0.048	0.75	0.105	0.16	_
2	rs3738401	17161	G/A	Gln264Arg	0.260	0.263	0.89	_	0.264	0.83	
3	rs1340982	48898	C/T	Ü	0.461	0.456	0.82		0.459	0.92	-
4	rs1322784	115801	T/C		0.351	0.371	0.36		0.375	0.19	
5	rs1535529	141475	C/T		0.425	0.441	0.48		0.410	0.42	
6	rs7551537	159083	C/T		0.363	0.363	0.98		0.382	0.29	
7	rs999710	197809	C/T		0.404	0.424	0.39		0.441	0.05	1.16
8	rs967433	218681	T/C		0.409	0.416	0.76		0.387	0.24	
9	rs821577	253923	G/T		0.201	0.166	0.05		0.172	0.06	
10	rs821597	289130	T/C		0.414	0.438	0.28	-	0.404	0.60	
11	rs843979	317474	C/G		0.335	0.358	0.29		0.334	0.92	
12	rs821616	331464	A/T	Ser704Cys	0.104	0.145	0.005	1.46	0.122	0.14	_
13	тя2806465	353160	G/C	·	0.376	0.378	0.92		0.370	0.75	

Minor allele frequencies in controls are shown. SZ, schizophrenia, OR, odds ratio. Significant results (P < 0.05) indicated by italics.

Table 2. Three-marker haplotype analysis among patients with major depression and controls

SNP	Haploty	pe									
1	2										
2	1	1									
3	1	1	2								
4		2	1	1							
5			2	1	1						
6				2	2	2					
7					1	1	1				
8						2	2	1			
9							2	2	2		
10								1	2	2	
11									1	2	2
12										2	2
13											2
Global P-value	0.030	0.19	0.043	0.81	0.74	0.55	0.69	0.20	0.012	0.17	0.057
Individual P-value	0.017	0.026	0.018	0.24	0.25	0.25	0.19	0.023	0.019	0.017	0.002
Haplotype frequency in control	0.050	0.201	0.180	0.123	0.136	0.108	0.081	0.064	0.018	0.096	0.074
Haplotype fequency in MDD	0.026	0.250	0.233	0.104	0.116	0.089	0.060	0.035	0.000	0.130	0.116

Major allele = 1, minor allele = 2. Individual P-value indicates the best P-value among the haplotypes. Significant results (P < 0.05) indicated by italies.

P < 0.05. Our results suggest that the Ser704Cys SNP of the DISC1 gene might affect human gray matter volume and white matter microstructure, particularly in peri-cingulate area. On the other hand, genotype effects of other SNPs, i.e. SNP1, SNP7 and SNP9 on the brain morphology or white matter microstructure, were not detected.

DISC1 and ERK signaling

ERK signaling and Akt signaling have been implicated in MDD (24,25). Thus, we investigated the possible involvement of DISC1 on ERK and Akt signaling pathways. The endogenous DISC1 function in cortical cultures was examined using small interfering RNA (siRNA) for DISC1, and robust decrease (70%) of endogenous DISC1 protein was confirmed (Fig. 3Aa and d). We found decreased levels of phosphorylation of ERK1/2 (pERK1/2: an activated form of ERK) and

phosphorylation of Akt (pAkt: an activated form of Akt) after DISC1-siRNA transfection, suggesting that endogenous DISC1 protein is involved in ERK and Akt activations (Fig. 3Aa–e). In contrast, the levels of total ERK1/2, Akt and TUJ1 (class III β -tubulin, a neuronal marker) proteins were not altered (Fig. 3Aa, quantified data (mean \pm SD): ERK1: 1.15 \pm 0.22, 0.95 \pm 0.27; ERK2: 1.01 \pm 0.17, 0.99 \pm 0.22; Akt: 1.05 \pm 0.06, 1.09 \pm 0.04; TUJ1: 1.03 \pm 0.07, 1.01 \pm 0.07; relative to none; scramble, si-DISC1, respectively).

To examine the effect of Ser704Cys SNP on ERK and Akt signaling, we overexpressed each type of DISC1 protein (sDISC1: DISC1 protein with Ser704; cDISC1: DISC1 protein with Cys704) using a sindbis virus-mediated gene delivery system. Neuronal cultures infected with the control viral construct [green fluorescence protein (GFP) only] were doubly stained with GFP signal and immunostaining signal

Table 3. Gender difference of allele distributions for 13 SNPs in the DISCI gene among patients with schizophrenia, those with major depression and controls

SNP	female							Male						
	Control	SZ			MDD			Control	SZ			MDD		
	n = 366	n = 318	P-value	OR.	n = 226	P-value	OR.	n = 351	n = 340	P-value	OR	n = 147	P-value	OR
1	0.135	0.102	0.061		0.091	0.021	0.64	0.108	0.107	0.96		0.099	0.65	_
2	0.258	0.274	0.52		0.279	0.44		0.262	0.254	0.74		0.238	0.43	
3	0.466	0.459	0.80	_	0.465	0.97		0.456	0.459	0.91	_	0.442	0.69	
4	0.344	0.385	0.12	_	0.356	0.68		0.359	0.366	0.78		0.395	0.29	
5	0.414	0.399	0.58		0.469	0.063	*****	0.437	0.421	0.53		0.398	0.25	
6	0.373	0.381	0.77		0.354	0.51	_	0.352	0.384	0.22		0.378	0.44	
7	0.404	0.447	0.12	_	0.427	0.44		0.405	0.437	0.23	_	0.418	0.69	-
8	0.411	0.390	0.42		0.425	0.65		0.406	0.384	0.40		0.401	0.89	_
9	0.209	0.154	0.0088	1.45	0.164	0.054		0.192	0.190	0.90		0.170	0.41	_
10	0.399	0.426	0.31		0.442	0.14		0.430	0.384	0.08		0.432	0.96	
11	0.328	0.343	0.56	*******	0.369	0.14	_	0.343	0.325	0.47		0.340	0.92	
12	0.111	0.137	0.14	-	0.146	0.073	_	0.097	0.107	0.52	_	0.143	0.035	0.64
13	0.383	0.363	0.46		0.363	0.50		0.369	0.376	0.77		0.401	0.34	

Minor allele frequencies in controls are shown. SZ, schizophrenia; OR, odds ratio. Significant results (P < 0.05) indicated by italics.

Table 4. Demographic information for the brain MRI study

Variables		cys-DISC1 carriers $(n = 22)$	P-value
Age	35.1 (11.5)	40.1 (13.8)	0.08
Gender (M/F)	33/53	7/15	0.81
Education years Full-scale IQ	16.7 (2.8) 111.8 (11.5)	16.8 (3.4) 109.2 (13.7)	0.89 0.39

Cys-DISC1 carriers (n=22): cys/ser-DISC1 (n=21) and cys/cys-DISC1(n=1). Mean values (SD) are presented.

by anti-microtubule-associated protein 2 (MAP2: a neuronal dendritic marker) antibody, as well as viral constructs of two types of DISC1 (sDISC1 and cDISC1) (Fig. 3Ba). About 85% of MAP2-positive cells in control-, sDISC1- or cDISC1-infected cortical cultures were GFP positive, indicating that the majority of neurons were infected, respectively [control (mean \pm SD): 84.4 \pm 6.4%; sDISC1: 86.6 \pm 5.1%; cDISC1: $86.3 \pm 9.8\%$, n=6 fields, selected randomly]. When cortical cultures infected by sDISC1 or cDISC1 were doubly stained with GFP signal and immunostaining signal by the DISC1 antibody, the sDISC1 and cDISC1 proteins were located in both cell body and neurites in punctuate manner, especially perinuclear region and neurite branch (Fig. 3Bb). As expression levels of GFP and TUJ1 were not altered by viral infections and both sDISC1- and cDISC1-infected cultures showed similar levels of DISC1 expression (Fig. 3Ca, quantified data (mean ± SD): GFP: 1.00 ± 0.10 , 0.92 ± 0.15 ; TUJ1: 0.98 ± 0.07 , 0.98 ± 0.09 ; DISC1: 5.43 ± 0.52 , 5.43 ± 0.33 , relative to control, sDISC1, cDISC1, respectively), we examined the phosphorylation of ERK and Akt in this system. Two-way ANOVA indicated significant main effects of viral infection (F = 202,df = 2, P < 0.001) and measurement of protein levels (F = 161, df = 8, P < 0.001) and interaction of these two factors (F = 44.4, df = 16, P < 0.001). There were significant effects of viral infection in the measurements of pERK1/2 and

pAkt; however, neither total ERK1/2 nor Akt was altered after virus infection (pERK1: F = 104, P < 0.001; pERK2: F = 29.2, P < 0.001; pAkt: F = 9.0, P < 0.01; ERK1: F = 1.8, P > 0.2; ERK2: F = 3.0, P > 0.1; Akt: F = 0.2, P > 0.8) (Fig. 3C). Post hoc comparison revealed significant increases in pERK1/2 in sDISC1- or cDISC1-infected cultures compared with control (pERK1: sDISC1 P < 0.01; cDISC1 P < 0.01; pERK2: sDISC1 P < 0.05; cDISC1 P < 0.05) (Fig. 3Ca and b). The levels of ERK1 activation in sDISC1-overexpressing cultures were more intensive than those in cDISC1-overexpressing cultures (P < 0.01)(Fig. 3Ca and b). A significant elevation of pAkt was observed in the sDISC1-overexpressing cultures compared with control (P < 0.05), although an increase in the pAkt level by cDISC1 overexpression was not significant (P > 0.1) (Fig. 3Ca and c). However, there were no significant difference of pAkt levels between sDISC1 and cDISC1 (P > 0.1).

We next examined rescue experiments, transfection with sDISC1 or cDISC1 into primary culture knocked down to DISC1. In this experiment, siRNA for DISC1 decreased phosphorylation of ERK by ~50% and there were significant effects of viral infection in the measurements of pERK1/2 (pERK1: F = 7.3, P < 0.01; pERK2: F = 9.4, $\hat{P} < 0.01$) (Fig. 3D). Post hoc comparison revealed a significant elevation of pERK1 levels in the sDISC1-overexpressing cultures compared with si-DISC1 treatment (P < 0.01), although an increase in the pERK1 level by cDISC1 overexpression was not statistically significant (P > 0.1) (Fig. 3D). A significant elevation of pERK2 was observed in sDISC1- and cDISC1-infected cultures compared with si-DISC1 treatment (sDISC1: P < 0.05; sDISC1: P < 0.05) (Fig. 3D). Western blots showed that total ERK, Akt and TUJ1 protein levels were not changed and that pAkt levels were also rescued by DISC1 overexpression (Fig. 3Da). These results suggest the recovery of the activation of ERK1/2 and Akt after sDISC1and cDISC-overexpression in DISC1 knockdown cultures. The effect of rescue on phosphorylation of ERK was larger in sDISC1 compared with cDISC1, although the difference did not reach the statistical significance (Fig. 3D). This

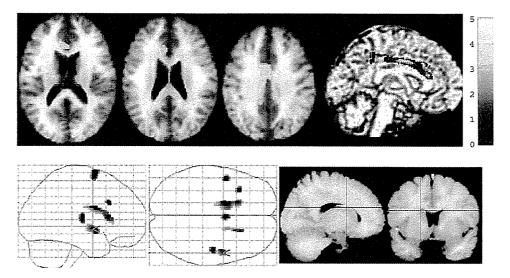


Figure 1. Impact on the brain morphology of the Ser704Cys SNP in healthy subjects. (Upper panel) The SPM (t) is displayed onto T1-weighted MR images. Cys-DISC1 carriers (n = 22) had reduced volumes in the bilateral ACC, cingulate gyrus and the posterior cingulate gyrus compared with ser/ser-DISC1 individuals (n = 86). (Lower panel) The SPM(t) is displayed on a standard maximum intensity projection images and T1-weighted MR images. Ser/Ser-DISC1 individuals demonstrated decreased volumes of the lateral ventricle, interhemispheric fissure and bilateral Sylvian fissure, indicating an expansion of the CSF space in cys-DISC1 carriers.

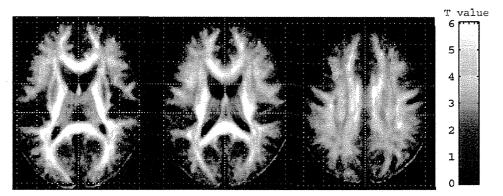


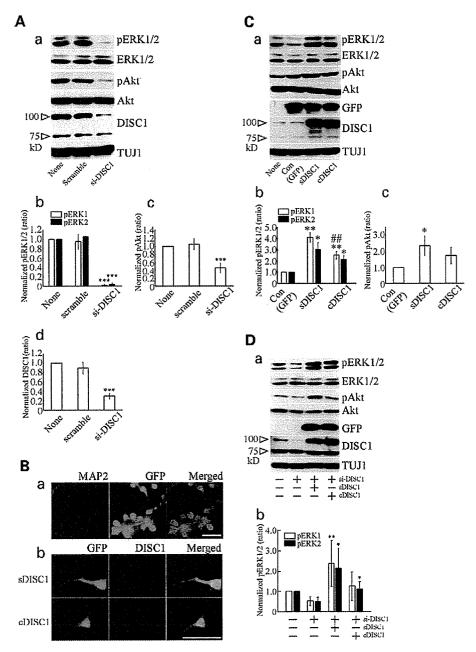
Figure 2. Disruption of white matter integrity revealed by DTI. The SPM $\{t\}$ is displayed onto a FA map. A significant reduction in FA in the prefrontal white matter was found in the cys-DISC1 carriers (n = 22) when compared with individuals with ser/ser-DISC1 (n = 86).

might be due to the complexity of this experiment (siRNA plus overexpression) compared with the overexpression only experiments, as the standard deviations of these experiments were larger than those of overexpression experiments. Our results suggest a possible role of DISC1 in the ERK and Akt signaling and an impact of Ser704Cys on ERK activation.

DISCUSSION

Here, we report the evidence for association between MDD and the Ser704Cys SNP as well as several haplotypes including the Ser704Cys SNP. We also replicated earlier evidence for a weak association with schizophrenia which is stronger in female patients (4). Previous association studies with

schizophrenia suggested several regions in the DISC1 gene, such as intron2-intron3, intron4-intron9 and intron9exon13 (4, 5, 8, 9). The region of intron8-intron9 is common across the studies. Consistent with the previous studies, two SNPs in intron9 were associated with schizophrenia in our study. Both false-positive and false-negative associations due to population stratification cannot be excluded in our case-control study, despite the precaution of ethnic matching of this study. Differences in gender ratio and ages between groups could be potential confounding factors. Therefore, it is necessary to carry out further investigations to confirm our findings in other samples. It has also suggested that allelic heterogeneity exists for association between the DISC1 gene and psychiatric illness (26), and this may explain different alleles being associated with illness in our sample compared with others.



We demonstrated that healthy subjects with the risk allele carriers for MDD (cys-DISC1) had relatively reduced the gray matter volumes in cingulate cortex, relatively expanded CSF space and reduced the FA values in the prefrontal white matter. This pattern of changes on magnetic resonance imaging (MRI) scanning, specifically the gray matter volume deficits in the ACC, expanded the CSF and reduced the FA values in prefrontal cortex, has been repeatedly reported in the studies of patients with schizophrenia and MDD (22,27-29). Several studies demonstrated a decreased volume in the ACC in patients with MDD in remission, MDD with a family history or in early onset depression (30-33) and abnormalities of cortical neuronal organization in postmortem brain of MDD have been reported in the ACC (34). It has been reported that relatively higher FA is associated with remission of MDD, following treatment with drugs or electroconvulsive therapy; however, reduced prefrontal FA has not been reported consistently in MDD (29,35-37). These various findings suggest that decreased gray matter volume and FA in the frontal area might be associated with the increased risk for MDD. Previous studies found that the risk haplotype of the DISC1 gene affected cortical gray matter and that Ser704Cys SNP had an impact on the hippocampal structure and function (9,11); however, we did not observe either effects of SNPs associated with schizophrenia in our sample on cortical gray matter or effects of Ser704Cys SNP on hippocampal volume. Moreover, in our study of the effect of Ser/Cys genotype on brain imaging derived phenotypes and clinical association, it is the cys allele that is relatively deleterious, whereas in an earlier study, it was the ser allele (9). These inconsistencies may relate to sample differences, methodological differences, and also to possible genetic and allelic

We found robust effects of DISC1 on ERK and Akt signaling and evidence that the cDISC1 (the risk allele for MDD) might exert a weaker effect on the ERK activation than sDISC1. The involvement of ERK in the therapeutic mechanisms of mood disorder has been proposed (38,39). It has been shown that ERK can phosphorylate PDE4 and alter its activity (40,41) and that PDE inhibitors might have antidepressant efficacy (24). Taken together, the regulation of ERK signaling by DISC1 may contribute, at least in part, to the mechanisms of the risk for MDD. Structural imaging studies have demonstrated reduced gray matter volumes and white matter abnormality in several brain areas of patients with mood disorders relative to healthy controls, and postmortem morphometric brain studies also demonstrated cellular atrophy and/or loss (24). As the ERK kinase signaling is implicated in cytoskeletal remodeling, neurite outgrowth and cell survival (24) and decreased expression of ERK was observed in the postmortem brain of depressive patients (42), impaired ERK signaling could be related to the structural abnormality in major depression.

In conclusion, we have found evidence for association between genetic variation of DISC1 and MDD, brain morphology and ERK signaling pathway. Our data suggest that Ser704Cys might be a functional variant that impacts on neural mechanisms implicated in the biology of major depression.

MATERIALS AND METHODS

Subjects

Subjects for the clinical association study were recruited at Fujita Health University School of Medicine, Showa University School of Medicine and National Center of Neurology and Psychiatry, Japan. They were 373 patients with MDD [147 males and 226 females with mean age of 54.0 years (SD 16.0); mean age of onset of 46.5 years (SD 15.3)], 658 patients with schizophrenia [340 males and 318 females with mean age of 43.6 years (SD 14.6); mean age of onset of 24.2 years (SD 8.6)] and 717 healthy comparison subjects [351 males and 366 females with mean age of 41.3 years (SD 16.9)]. All the subjects were Japanese. Consensus diagnosis was made for each patient by at least two psychiatrists, according to the Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, 4th edition (DSM-IV Criteria). Control subjects were healthy volunteers who had no current or past contact to psychiatric services.

One hundred and eight healthy Japanese (biologically unrelated) for MR experiments were recruited at the National Center of Neurology and Psychiatry and screened by a questionnaire on medical history and excluded if they had neurological, psychiatric or medical conditions that could potentially affect the central nervous system, such as substance abuse or dependence, atypical headache, head trauma with loss of consciousness, asymptomatic or symptomatic cerebral infarction detected by the T2-weighted MRI, hypertension, chronic lung disease, kidney disease, chronic hepatic disease, cancer or diabetes mellitus. Detail demographics of subjects in genotypes of SNP1, SNP7, SNP9 and SNP12 (Ser704Cys) were noted in Supplementary Material. After description of the study, written informed consent was obtained from every subject. The study protocol was approved by institutional Ethics Committees.

Genetic analysis

Venous blood was drawn from subjects and genomic DNA was extracted from the whole blood according to the standard procedures. Thirteen SNPs were genotyped using the TagMan 5'-exonuclease allelic discrimination assay as described previously (43,44). Primers and probes for detection of the SNPs are available upon request. Statistical analysis of association studies was performed using SNPAlyse (DYNACOM, Yokohama, Japan). Allele distributions between patients and controls were analyzed by the χ^2 test for independence. The measure of LD, denoted as D' and r^2 , was calculated from the haplotype frequency using the expectation-maximization algorithm. Case-control haplotype analysis was performed by the permutation method to obtain the empirical significance (45). The global P-values represent the overall significance using the χ^2 test when the observed versus expected frequencies of all the haplotypes are considered together. The individual haplotypes were tested for association by grouping all others together and applying the χ^2 -test with 1 df. P-values were calculated on the basis of 10 000 replications. All P-values reported are two tailed. Statistical significance was defined at P < 0.05.

Neuroimaging analysis

Brain MR procedure is described in Supplementary Material. The basic principle of TBM is to analyze the local deformations of an image and to infer local differences in the brain structure. The method was described in detail previously (46) (Supplementary Material). Diffusion tensor imaging (DTI) analysis was performed using FA maps by a voxel-by-voxel analysis (Supplementary Material). The statistical parametric maps of Jacobian determinants and FA values were analyzed using statistical parametric mapping (SPM) 2, which implements a 'general linear model'. To test hypotheses about regional population effects, data were analyzed by a two-sample t-test without global normalization. We used P < 0.001 without a correction for multiple comparisons to avoid type-II error to explore whole brain and then applied small-volume correction (P < 0.01) to each cluster. Since there has been no a priori hypothesis for FA changes associated with DISC1 polymorphism, we applied conservative statistical threshold (P < 0.001) for the analysis of FA values. The resulting sets of t-values constituted the statistical parametric maps {SPM (t)}.

Molecular biology

Primary cultures were prepared from the cerebral cortex of postnatal 2-day-old rats (Wister ST; SLC, Shizuoka, Japan) as reported previously (47,48).

The siRNA transfection was performed as reported previously (49). We used 21 nt siRNA duplexes with two nucleotides of the rat DISC1 mRNA coding region (113-131, GACCAGGCTACATGAGAAG, NM_175596). Sense (GAC CAGGCUACAUGAGAAGtt) and antisense (CUUCUCAU GUAGCCUGGUCtc) strands were chemically synthesized by Ambion Ltd (Cambridge, UK). The siRNA (GCGCGC UUUGUAGGAUUCG) named ScrambleII from Dharmacon Research Inc. was used as a scramble control. The plasmid for viral construction of the DISC1 gene was derived from pSinRep5 (Invitrogen, USA) and had two subgenomic promoters followed by a multiple cloning site for an arbitrary gene insertion and an enhanced GFP open-reading frame, thus the virus can produce both arbitrary protein and enhanced GFP independently in the infected cell (50). The control virus produces GFP only, whereas DISC1 virus produces both DISC1 and GFP independently. Detail procedure for viral construction is in Supplementary Material.

Immunocytochemistry was performed, as described previously (51). We used anti-MAP2 (1:1000; Sigma) or anti-DISC1 (1:100) (17) antibodies as a primary antibody, respectively. Alexa Fluor (1:1000, Molecular Probes) was applied as a secondary antibody. Fluorescent images were observed by an inverted microscope (Axiovert 200, ZEISS) with a CCD (cool SNAPfx, ZEISS).

Immunoblotting was carried out as described previously (47). Primary antibodies for immunoblotting were used at the following dilutions: anti-Akt (1:1000, Cell Signaling), anti-phospho-Akt (1:1000, Cell Signaling), anti-ERK (1:1000, Cell Signaling), anti-Phospho-ERK (1:1000, Cell Signaling), anti-TUJ1 (1:5000, Berkeley antibody company), anti-GFP (1:1000, Medical & Biological Laboratories) and

anti-DISC1 antibodies (1:1000) (17). To quantify the amount of proteins after immunoblotting, we measured the density of immunoblots with an image-analysis software (Science Lab 98 Image Gauge; Fuji Photo Film Co. Ltd, Tokyo, Japan). The level of protein expression was indicated as a ratio that was normalized to control the condition (none, sole GFP-infected, or scramble-transfection, respectively) in each experiment. Statistical analysis was performed with unpaired *t*-test or ANOVA, followed by the Tukey *post hoc* comparisons when applicable.

SUPPLEMENTARY MATERIAL

Supplementary Material is available at HMG Online.

ACKNOWLEDGEMENTS

The authors thank Tomoko Shizuno for technical assistance. This work was supported in part by Grants-in-Aid from the Japanese Ministry of Health, Labor and Welfare (H17-kokoro-007 and H16-kokoro-002), the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, CREST (Core research for Evolutional Science and Technology) of JST (Japan Science and Technology Agency), Research on Health Sciences focusing on Drug Innovation of the Japan Health Sciences Foundation, the Uehara Memorial Foundation, Takeda Science Foundation and Japan Foundation for Neuroscience and Mental Health.

Conflict of Interest statement. The authors declare that they have no conflict of interests.

REFERENCES

- Millar, J.K., Wilson-Annan, J.C., Anderson, S., Christie, S., Taylor, M.S., Semple, C.A., Devon, R.S., Clair, D.M., Muir, W.J., Blackwood, D.H. et al. (2000) Disruption of two novel genes by a translocation co-segregating with schizophrenia. Hum. Mol. Genet., 9, 1415–1423.
- Blackwood, D.H., Fordyce, A., Walker, M.T., St Clair, D.M., Porteous, D.J. and Muir, W.J. (2001) Schizophrenia and affective disorders—cosegregation with a translocation at chromosome 1q42 that directly disrupts brain-expressed genes: clinical and P300 findings in a family. Am. J. Hum. Genet., 69, 428-433.
- Ekelund, J., Hovatta, I., Parker, A., Paunio, T., Varilo, T., Martin, R., Suhonen, J., Ellonen, P., Chan, G., Sinsheimer, J.S. et al. (2001) Chromosome 1 loci in Finnish schizophrenia families. Hum. Mol. Genet., 10, 1611-1617.
- Hennah, W., Varilo, T., Kestila, M., Paunio, T., Arajarvi, R., Haukka, J., Parker, A., Martin, R., Levitzky, S., Partonen, T. et al. (2003) Haplotype transmission analysis provides evidence of association for DISC1 to schizophrenia and suggests sex-dependent effects. Hum. Mol. Genet., 12, 3151–3159.
- Hodgkinson, C.A., Goldman, D., Jaeger, J., Persaud, S., Kane, J.M., Lipsky, R.H. and Malhotra, A.K. (2004) Disrupted in schizophrenia 1 (DISC1): association with schizophrenia, schizoaffective disorder, and bipolar disorder. Am. J. Hum. Genet., 75, 862–872.
- Ekelund, J., Hennah, W., Hiekkalinna, T., Parker, A., Meyer, J., Lonnqvist, J. and Peltonen, L. (2004) Replication of 1q42 linkage in Finnish schizophrenia pedigrees. Mol. Psychiatry, 9, 1037-1041.
- Sachs, N.A., Sawa, A., Holmes, S.E., Ross, C.A., DeLisi, L.E. and Margolis, R.L. (2005) A frameshift mutation in Disrupted in Schizophrenia 1 in an American family with schizophrenia and schizoaffective disorder. *Mol. Psychiatry*, 10, 758-764.
- Thomson, P.A., Wray, N.R., Millar, J.K., Evans, K.L., Hellard, S.L., Condie, A., Muir, W.J., Blackwood, D.H. and Porteous, D.J. (2005)

- Association between the TRAX/DISC locus and both bipolar disorder and schizophrenia in the Scottish population. *Mol. Psychiatry*, **10**, 657-668.
- Callicott, J.H., Straub, R.E., Pezawas, L., Egan, M.F., Mattay, V.S., Hariri, A.R., Verchinski, B.A., Meyer-Lindenberg, A., Balkissoon, R., Kolachana, B. et al. (2005) Variation in DISC1 affects hippocampal structure and function and increases risk for schizophrenia. Proc. Natl Acad. Sci. USA., 102, 8627–8632.
- Hamshere, M.L., Bennett, P., Williams, N., Segurado, R., Cardno, A., Norton, N., Lambert, D., Williams, H., Kirov, G., Corvin, A. et al. (2005) Genomewide linkage scan in schizoaffective disorder: significant evidence for linkage at 1q42 close to DISC1, and suggestive evidence at 22q11 and 19p13. Arch. Gen. Psychiatry, 62, 1081-1088.
- Cannon, T.D., Hennah, W., van Erp, T.G., Thompson, P.M., Lonnqvist, J., Huttunen, M., Gasperoni, T., Tuulio-Henriksson, A., Pirkola, T., Toga, A.W. et al. (2005) Association of DISC1/TRAX haplotypes with schizophrenia, reduced prefrontal gray matter, and impaired short- and long-term memory. Arch. Gen. Psychiatry, 62, 1205-1213.
- Burdick, K.E., Hodgkinson, C.A., Szeszko, P.R., Lencz, T., Ekholm, J.M., Kane, J.M., Goldman, D. and Malhotra, A.K. (2005) DISC1 and neurocognitive function in schizophrenia. *Neuroreport*, 16, 1399-1402.
- Kamiya, A., Kubo, K., Tomoda, T., Takaki, M., Youn, R., Ozeki, Y., Sawamura, N., Park, U., Kudo, C., Okawa, M. et al. (2005) A schizophrenia-associated mutation of DISC1 perturbs cerebral cortex development. Nat. Cell Biol., 7, 1067–1078.
- Millar, J.K., Christie, S. and Porteous, D.J. (2003) Yeast two-hybrid screens implicate DISC1 in brain development and function. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 311, 1019–1025.
- Morris, J.A., Kandpal, G., Ma, L. and Austin, C.P. (2003) DISC1 (disrupted-in-schizophrenia 1) is a centrosome-associated protein that interacts with MAP1A, MIPT3, ATF4/5 and NUDEL: regulation and loss of interaction with mutation. *Hum. Mol. Genet.*, 12, 1591–1608.
- Miyoshi, K., Honda, A., Baba, K., Taniguchi, M., Oono, K., Fujita, T., Kuroda, S., Katayama, T. and Tohyama, M. (2003)
 Disrupted-in-schizophrenia 1, a candidate gene for schizophrenia, participates in neurite outgrowth. Mol. Psychiatry, 8, 685–694.
- Ozeki, Y., Tomoda, T., Kleiderlein, J., Kamiya, A., Bord, L., Fujii, K., Okawa, M., Yamada, N., Hatten, M.E., Snyder, S.H. et al. (2003) Disrupted-in-schizophrenia-1 (DISC-1): mutant truncation prevents binding to NudE-like (NUDEL) and inhibits neurite outgrowth. Proc. Natl Acad. Sci. USA., 100, 289-294.
- Miyoshi, K., Asanuma, M., Miyazaki, I., Diaz-Corrales, F.J., Katayama, T., Tohyama, M. and Ogawa, N. (2004) DISC1 localizes to the centrosome by binding to kendrin. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 317, 1195–1199.
- Millar, J.K., Pickard, B.S., Mackie, S., James, R., Christie, S., Buchanan, S.R., Malloy, M.P., Chubb, J.E., Huston, E., Baillie, G.S. et al. (2005) DISC1 and PDE4B are interacting genetic factors in schizophrenia that regulate cAMP signaling. Science, 310, 1187-1191.
- Sawamura, N., Sawamura-Yamamoto, T., Ozeki, Y., Ross, C.A. and Sawa, A. (2005) A form of DISC1 enriched in nucleus: altered subcellular distribution in orbitofrontal cortex in psychosis and substance/alcohol abuse. Proc. Natl Acad. Sci. USA., 102, 1187–1192.
- James, R., Adams, R.R., Christie, S., Buchanan, S.R., Porteous, D.J. and Millar, J.K. (2004) Disrupted in schizophrenia 1 (DISC1) is a multicompartmentalized protein that predominantly localizes to mitochondria. *Mol. Cell Neurosci.*, 26, 112–122.
- Shenton, M.E., Dickey, C.C., Frumin, M. and McCarley, R.W. (2001) A review of MRI findings in schizophrenia. Schizophr. Res., 49, 1–52.
- Drevets, W.C., Ongur, D. and Price, J.L. (1998) Neuroimaging abnormalities in the subgenual prefrontal cortex: implications for the pathophysiology of familial mood disorders. Mol. Psychiatry, 3, 220–226.
- Manji, H.K., Quiroz, J.A., Sporn, J., Payne, J.L., Denicoff, K., Gray, N.A., Zarate, C.A., Ir and Chamey, D.S. (2003) Enhancing neuronal plasticity and cellular resilience to develop novel, improved therapeutics for difficult-to-treat depression. *Biol. Psychiatry*, 53, 707-742.
- Coyle, J.T. and Duman, R.S. (2003) Finding the intracellular signaling pathways affected by mood disorder treatments. *Neuron*, 38, 157-160.
- Harrison, P.J. and Weinberger, D.R. (2005) Schizophrenia genes, gene expression, and neuropathology: on the matter of their convergence. *Mol. Psychiatry*, 10, 40-68.
- Manji, H.K., Drevets, W.C. and Charney, D.S. (2001) The cellular neurobiology of depression. *Nat. Med.*, 7, 541-547.

- Kubicki, M., Westin, C.F., McCarley, R.W. and Shenton, M.E. (2005) The application of DTI to investigate white matter abnormalities in schizophrenia. Ann. N. Y. Acad. Sci., 1064, 134–148.
- Taylor, W.D., MacFall, J.R., Payne, M.E., McQuoid, D.R., Provenzale, J.M., Steffens, D.C. and Krishnan, K.R. (2004) Late-life depression and microstructural abnormalities in dorsolateral prefrontal cortex white matter. Am. J. Psychiatry, 161, 1293-1296.
- Drevets, W.C., Price, J.L., Simpson, J.R., Jr, Todd, R.D., Reich, T., Vannier, M. and Raichle, M.E. (1997) Subgenual prefrontal cortex abnormalities in mood disorders. *Nature*, 386, 824-827.
- Botteron, K.N., Raichle, M.E., Drevets, W.C., Heath, A.C. and Todd, R.D. (2002) Volumetric reduction in left subgenual prefrontal cortex in early onset depression. *Biol. Psychiatry*, 51, 342-344.
- Bremner, J.D., Vythilingam, M., Vermetten, E., Nazeer, A., Adil, J., Khan, S., Staib, L.H. and Chamey, D.S. (2002) Reduced volume of orbitofrontal cortex in major depression. *Biol. Psychiatry*, 51, 273-279.
- Ballmaier, M., Toga, A.W., Blanton, R.E., Sowell, E.R., Lavretsky, H., Peterson, J., Pham, D. and Kumar, A. (2004) Anterior cingulate, gyrus rectus, and orbitofrontal abnormalities in elderly depressed patients: an MRI-based parcellation of the prefrontal cortex. Am. J. Psychiatry, 161, 99-108.
- 34. Chana, G., Landau, S., Beasley, C., Everall, I.P. and Cotter, D. (2003) Two-dimensional assessment of cytoarchitecture in the anterior cingulate cortex in major depressive disorder, bipolar disorder, and schizophrenia: evidence for decreased neuronal somal size and increased neuronal density. Biol. Psychiatry, 53, 1086-1098.
- Taylor, W.D., Payne, M.E., Krishnan, K.R., Wagner, H.R., Provenzale, J.M., Steffens, D.C. and MacFall, J.R. (2001) Evidence of white matter tract disruption in MRI hyperintensities. *Biol. Psychiatry*, 50, 179-183.
- Alexopoulos, G.S., Kiosses, D.N., Choi, S.J., Murphy, C.F. and Lim, K.O. (2002) Frontal white matter microstructure and treatment response of late-life depression: a preliminary study. *Am. J. Psychiatry*, 159, 1929–1932.
- Nobuhara, K., Okugawa, G., Minami, T., Takase, K., Yoshida, T., Yagyu, T., Tajika, A., Sugimoto, T., Tamagaki, C., Ikeda, K. et al. (2004) Effects of electroconvulsive therapy on frontal white matter in late-life depression: a diffusion tensor imaging study. Neuropsychobiology, 50, 48-53.
- Einat, H., Yuan, P., Gould, T.D., Li, J., Du, J., Zhang, L., Manji, H.K. and Chen, G. (2003) The role of the extracellular signal-regulated kinase signaling pathway in mood modulation. J. Neurosci., 23, 7311–7316.
- Shirayama, Y., Chen, A.C., Nakagawa, S., Russell, D.S. and Duman, R.S. (2002) Brain-derived neurotrophic factor produces antidepressant effects in behavioral models of depression. J. Neurosci., 22, 3251-3261.
- Baillie, G.S., MacKenzie, S.J., McPhee, I. and Houslay, M.D. (2000) Sub-family selective actions in the ability of Erk2 MAP kinase to phosphorylate and regulate the activity of PDE4 cyclic AMP-specific phosphodiesterases. Br. J. Pharmacol., 131, 811–819.
- Hill, E.V., Houslay, M.D. and Baillie, G.S. (2005) Investigation of extracellular signal-regulated kinase 2 mitogen-activated protein kinase phosphorylation and regulation of activity of PDE4 cyclic adenosine monophosphate-specific phosphodiesterases. *Methods Mol. Biol.*, 307, 225–237
- Dwivedi, Y., Rizavi, H.S., Roberts, R.C., Conley, R.C., Tamminga, C.A. and Pandey, G.N. (2001) Reduced activation and expression of ERK1/2 MAP kinase in the post-mortem brain of depressed suicide subjects.
 J. Neurochem., 77, 916–928.
- Hashimoto, R., Okada, T., Kato, T., Kosuga, A., Tatsumi, M., Kamijima, K. and Kunugi, H. (2005) The breakpoint cluster region gene on chromosome 22q11 is associated with bipolar disorder. *Biol. Psychiatry*, 57, 1097–1102.
- Hashimoto, R., Suzuki, T., Iwata, N., Yamanouchi, Y., Kitajima, T., Kosuga, A., Tatsumi, M., Ozaki, N., Kamijima, K. and Kunugi, H. (2005) Association study of the frizzled-3 (FZD3) gene with schizophrenia and mood disorders. J. Neural. Transm., 112, 303-307.
- Good, P. (2000) Permutation Tests. A Practical Guide to Resampling Methods for Testing Hypothesis, 2nd edn. Springer-Verlag, New York.
- 46. Ohnishi, T., Hashimoto, R., Mori, T., Nemoto, K., Moriguchi, Y., Iida, H., Noguchi, H., Nakabayashi, T., Hori, H., Ohmori, M. et al. (2006) The association between the Val158Met polymorphism of the catechol-O-methyl transferase gene and morphological abnormalities of the brain in chronic schizophrenia. Brain., 129, 399–410.

- Numakawa, T., Yokomaku, D., Kiyosue, K., Adachi, N., Matsumoto, T., Numakawa, Y., Taguchi, T., Hatanaka, H. and Yamada, M. (2002) Basic fibroblast growth factor evokes a rapid glutamate release through activation of the MAPK pathway in cultured cortical neurons. J. Biol. Chem., 277, 28861–28869.
- Numakawa, T., Yamagishi, S., Adachi, N., Matsumoto, T., Yokomaku, D., Yamada, M. and Hatanaka, H. (2002) Brain-derived neurotrophic factor-induced potentiation of Ca(2+) oscillations in developing cortical neurons. J. Biol. Chem., 277, 6520-6529.
- Numakawa, T., Nakayama, H., Suzuki, S., Kubo, T., Nara, F., Numakawa, Y., Yokomaku, D., Araki, T., Ishimoto, T., Ogura, A.
- et al. (2003) Nerve growth factor-induced glutamate release is via p75 receptor, ceramide, and Ca(2+) from ryanodine receptor in developing cerebellar neurons. J. Biol. Chem., 278, 41259–41269.
- cerebellar neurons. J. Biol. Chem., 278, 41259–41269.
 Kawamura, M., Namba, H., Otsu, Y., Hayashi, Y., Takei, N. and Nawa, H. (2003) Characterization of novel bicistronic Sindbis virus vectors, SinEGdsp and SinIRES-EG, in cultured neurons. Recent Res. Dev. Neurochem., 6, 105–120.
- Neurochem., 6, 105-120.
 Numakawa, T., Yagasaki, Y., Ishimoto, T., Okada, T., Suzuki, T., Iwata, N., Ozaki, N., Taguchi, T., Tatsumi, M., Kamijima, K. et al. (2004) Evidence of novel neuronal functions of dysbindin, a susceptibility gene for schizophrenia. Hum. Mol. Genet., 13, 2699-2708.

doi:10.1093/brain/awh702

Brain (2005) Page 1 of 12

The association between the Vall58Met polymorphism of the catechol-O-methyl transferase gene and morphological abnormalities of the brain in chronic schizophrenia

Takashi Ohnishi, ^{1,2,4} Ryota Hashimoto, ² Takeyuki Mori, ^{1,2} Kiyotaka Nemoto, ¹ Yoshiya Moriguchi, ¹ Hidehiro Iida, ⁴ Hiroko Noguchi, ² Tetsuo Nakabayashi, ^{2,3} Hiroaki Hori, ^{2,3} Mayu Ohmori, ³ Ryoutaro Tsukue, ³ Kimitaka Anami, ³ Naotugu Hirabayashi, ³ Seiichi Harada, ³ Kunimasa Arima, ³ Osamu Saitoh ³ and Hiroshi Kunugi ²

Department of Radiology, National Center Hospital of Mental, Nervous and Muscular Disorders, National Center of Neurology and Psychiatry, ²Department of Mental Disorder Research, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry, ³Department of Psychiatry, National Center Hospital of Mental, Nervous, and Muscular Disorders, National Center of Neurology and Psychiatry, Tokyo and ⁴Department of Investigative Radiology, Research Institute, National Cardiovascular Center, Osaka, Japan

Correspondence to: Takashi Ohnishi, Department of Radiology, National Center Hospital of Mental, Nervous, and Muscular Disorders, National Center of Neurology and Psychiatry 4-1-1 Ogawa Higashi, Kodaira City, Tokyo, Japan 187-0031

E-mail: tohnishi@hotmail.com

The catechol-O-methyl transferase (COMT) gene is considered to be a promising schizophrenia susceptibility gene. A common functional polymorphism (Val I 58Met) in the COMT gene affects dopamine regulation in the prefrontal cortex (PFC). Recent studies suggest that this polymorphism contributes to poor prefrontal functions, particularly working memory, in both normal individuals and patients with schizophrenia. However, possible morphological changes underlying such functional impairments remain to be clarified. The aim of this study was to examine whether the Vall58Met polymorphism of the COMT gene has an impact on brain morphology in normal individuals and patients with schizophrenia. The Vall 58Met COMT genotype was obtained for 76 healthy controls and 47 schizophrenics. The diagnostic effects, the effects of COMT genotype and the genotype-diagnosis interaction on brain morphology were evaluated by using a voxel-by-voxel statistical analysis for high-resolution MRI, a tensor-based morphometry. Patients with schizophrenia demonstrated a significant reduction of volumes in the limbic and paralimbic systems, neocortical areas and the subcortical regions. Individuals homozygous for the Val-COMT allele demonstrated significant reduction of volumes in the left anterior cingulate cortex (ACC) and the right middle temporal gyrus (MTG) compared to Met-COMT carriers. Significant genotype-diagnosis interaction effects on brain morphology were noted in the left ACC, the left parahippocampal gyrus and the left amygdala-uncus. No significant genotype effects or genotype-diagnosis interaction effects on morphology in the dorsolateral PFC (DLPFC) were found. In the control group, no significant genotype effects on brain morphology were found. Schizophrenics homozygous for the Val-COMT showed a significant reduction of volumes in the bilateral ACC, left amygdala-uncus, right MTG and left thalamus compared to Met-COMT schizophrenics. Our findings suggest that the Val158Met polymorphism of the COMT gene might contribute to morphological abnormalities in schizophrenia.

Keywords: schizophrenia; polymorphism; COMT; ACC; DLPFC

Abbreviations: ACC = anterior cingulate cortex; COMT = catechol-O-methyl transferase; DLPFC = dorsolateral prefrontal cortex; FDR = false discovery rate; IQ = intelligence quotient; JART = Japanese version of National Adult Reading Test; ROI = region of interest; SPM = statistical parametric mapping; TBM = tensor-based morphometry

Received July 15, 2005. Revised September 21, 2005. Accepted October 27, 2005

Introduction

Schizophrenia is a severe neuropsychiatric disorder with deficits of multiple domains of cognitive functions, volition and emotion. Family and twin studies have provided cumulative evidence for a genetic basis of schizophrenia (Kendler, 1983; McGue et al., 1983; Sullivan et al., 2003); however, identification of the underlying susceptibility loci has been limited. Collective data have suggested that the aetiology of schizophrenia involves the interplay of complex polygenic influences and environmental risk factors operating on brain maturational processes (Harrison et al., 2005).

In vivo neuroimaging studies have demonstrated that brain abnormalities should play an important role in the pathophysiology of schizophrenia. Structural MRI studies have demonstrated relatively consistent brain abnormalities in patients with schizophrenia, such as enlargement of the ventricular system and regional volume decrease in the temporal lobe structures (Gaser et al., 2001; Okubo et al., 2001; Shenton et al., 2001; Davidson and Heinrichs, 2003). Studies with schizophrenics and their healthy siblings demonstrate that even healthy siblings share some of morphological abnormalities observed in schizophrenia (Steel et al., 2002; Gogtay et al., 2003). A recent morphological MR study revealed that a common polymorphism of the brain-derived neurotrophic factor, one of the well-known schizophrenia susceptibility genes, affected the anatomy of the hippocampus and prefrontal cortex (PFC) in healthy individuals (Pezawas et al., 2004). Furthermore, some studies have suggested that environmental factors interact with genetic factors (Cannon et al., 1993; Nelson et al., 2004). For example, obstetric complications are well known non-genetic risk factors of schizophrenia. However, a previous study suggested that obstetric complications might induce brain morphological abnormalities in schizophrenics and their siblings, but not in comparison with subjects at low genetic risk for schizophrenia (Cannon et al., 1993). These facts suggest that genetic factors should have considerable impact on brain morphology in patients with schizophrenia.

Catechol-O-methyl transferase (COMT) is a promising schizophrenia susceptibility gene because of its role in monoamine metabolism (Goldberg et al., 2003; Stefanis et al., 2004; Harrison et al., 2005). A common single nucleotide polymorphism (SNP) of the COMT gene producing an amino acid substitution of methionine (met) to valine (val) at position 108/158 (Val158Met) affects dopamine regulation in the PFC (Palmatier et al., 1999). This polymorphism impacts on the stability of the enzyme, such that the Val-COMT allele has significantly lower enzyme activity than the Met-COMT allele (Weinberger et al., 2001; Chen et al., 2004). Several

studies have revealed that the Val-COMT allele is associated with poorer performances, compared to the Met-COMT allele, in cognitive tasks of frontal function such as the Wisconsin Card Sorting Test (WCST) and N-back task (Egan et al., 2001; Weinberger et al., 2001; Goldberg et al., 2003). The underlying mechanism of such behavioural differences may be related to lower prefrontal dopamine levels arising from higher dopamine catabolism mediated by the Val-COMT allele (Chen et al., 2004; Tunbridge et al., 2004).

The results of studies on the association between the Val158Met polymorphism and schizophrenia have, however, been controversial (Daniels et al., 1996; Kunugi et al., 1997; Ohmori et al., 1998; Norton et al., 2002; Galderisi et al., 2005; Ho et al., 2005). The result of a meta-analysis was even more inconclusive (Fan et al., 2005). Such inconsistency was also found in associations between frontal functions and the Val158Met polymorphism (Egan et al., 2001; Weinberger et al., 2001; Goldberg et al., 2003; Ho et al., 2005). The possible morphological changes due to the COMT gene might be present and play a role in susceptibility to schizophrenia and in giving rise to impaired frontal functions. However, morphological changes underlying functional impairments remain to be clarified.

A recent advancement of methods for MR volumetry, such as voxel-based morphometry and deformation-based morphometry [or tensor-based morphometry (TBM)], allows us to explore and analyse brain structures of schizophrenics (Wright *et al.*, 1995; Gaser *et al.*, 2001). Using TBM techniques, we investigated the association between the Val158-Met polymorphism of the COMT gene and brain morphology in normal individuals and patients with schizophrenia. The aim of this study was to clarify whether there are significant genotype and/or genotype-disease interaction effects on brain morphology.

Methods Subjects

Seventy-six healthy subjects and forty-seven patients with schizophrenia participated in the study. All the subjects were biologically unrelated Japanese. Written informed consent was obtained from all the subjects in accordance with ethical guidelines set by a local ethical committee. All normal subjects were screened using a questionnaire on medical history and excluded if they had neurological, psychiatric or medical conditions that could potentially affect the CNS, such as substance abuse or dependence, atypical headache, head trauma with loss of consciousness, asymptomatic or symptomatic cerebral infarctions detected by T₂-weighted MRI, hypertension, chronic lung disease, kidney disease, chronic hepatic disease, cancer, or diabetes mellitus. The patients were diagnosed on the basis of DSM-IV criteria, information from medical records and a clinical interview. All patients were stable and/or partially remitted at the time of MR measurement and neuropsychological tests.

According to genotypes, each group (control and schizophrenia) was categorized into three groups; the homozygous Val-COMT group (control: n = 38, two were left-handed, schizophrenia: n = 19, one was left-handed), the Val/Met-COMT group (control: n = 25, three were left-handed, schizophrenia: n = 22, all were righthanded) and the remaining homozygous Met-COMT group (control: n = 13, all were right-handed, schizophrenia: n = 6, all were right-handed). Because of the small number of subjects with homozygous Met-COMT, the Val/Met-COMT and homozygous Met-COMT groups were combined and treated as one group, the Met-COMT carriers. Table 1 shows the characteristics of each group. All groups were of comparable age, gender (χ^2 test, df = 3, P = 0.38) and handedness (χ^2 -test, df = 3, P = 0.53). No genotype effects and genotype-diagnosis interaction effects were found in years of education, scores of full scale Intelligence Quotient (IQ) and scores of premorbid IQ [Japanese version of National Adult Reading Test (JART) score], however, patients who had fewer years of education (P < 0.0001), had lower scores of both full scale IQ and JART (P <0.001). The duration of illness, medication and hospitalization, the age at disease onset and drug dose (chlorpromazine equivalent) of those homozygous for the Val-COMT did not differ from the Met-COMT carriers.

SNP genotyping

Venous blood was drawn from subjects and genomic DNA was extracted from whole blood according to the standard procedures. The Val158Met polymorphism of the COMT gene (dbSNP accession: rs4680) was genotyped using the TaqMan 5′-exonuclease allelic discrimination assay, described previously (Hashimoto *et al.*, 2004, 2005). Briefly, primers and probes for detection of the SNP are: forward primer 5′-GACTGTGCCGCCATCAC-3′, reverse primer 5′-CAGGCATGCACACCTTGTC-3′, probe 1 5′-VIC-TTTCGCTG-GCGTGAAG-MGB-3′ and probe 2 5′-FAM-CGCTGGCATGAAG-MGB-3′. PCR cycling conditions were: at 95°C for 10 min, 50 cycles of 92°C for 15 s and 60°C for 1 min.

MRI procedures

All MR studies were performed on a 1.5 tesla Siemens Magnetom Vision plus system. A three dimensional (3D) volumetric acquisition of a T_1 -weighted gradient echo sequence produced a gapless series of thin sagittal sections using an MPRage sequence (TE/TR, 4.4/11.4 ms; flip angle, 15°; acquisition matrix, 256 \times 256; 1 NEX, field of view, 31.5 cm; slice thickness, 1.23 mm).

Image analysis (TBM)

The basic principle of TBM is to analyse the local deformations of an image and to infer local differences in brain structure. In TBM, MRI scans of individual subjects are mapped to a template image with three-dimensional (3D) non-linear normalization routines. Local deformations were estimated by a univariate Jacobian approach. The basic principle of TBM is the same as a method used in a previous report described as deformation-based morphometry (Gaser et al., 2001). Firstly, inhomogeneities in MR images were corrected using a bias correction function in statistical parametric mapping (SPM2),

then the corrected image was scalp-edited by masking with a probability image of brain tissue obtained from each image using a segmentation function in SPM2. Using a linear normalization algorithm in SPM2, all brains were resized to a voxel size of 1.5 mm and adjusted for orientation and overall width, length and height (Fig. 1A). Therefore, brains were transformed to the anatomical space of a template brain whose space is based on Talairach space (Talairach and Tournoux, 1988). Subsequent non-linear normalization introduced local deformations to each brain to match it to the same scalp-edited template brain (Fig. 1C). The non-linear transformation was done using the high-dimension-warping algorithm (Ashburner and Friston, 2004). After the high dimensional warping, each image (Fig. 1B) looks similar to the template (Fig. 1C). Figure 2 demonstrated a mean MR image of 76 controls (left) and a mean MR image of 47 schizophrenics after high dimensional warping (Fig. 2). We obtained 3D deformation fields for every brain (Fig. 1D). Each of these 3D deformation fields consists of displacement vectors for every voxel, which describe the 3D displacement needed to locally deform the brain to match it to the template. We calculated the Jacobian determinants to obtain voxel by voxel parametric maps of local volume change relative to the template brain (Fig. 1E). The local Jacobian determinant is a parameter commonly used in continuum mechanics (Gurtin, 1987), which characterizes volume changes, such as local shrinkage or enlargement caused by warping. The parametric maps of Jacobian determinants were analysed using SPM2, which implements a 'general linear model'. To test hypotheses about regional population effects and interaction, data were analysed by an analysis of covariance (ANCOVA) without global normalization. There was no significant difference in age among the four groups, however, patients with schizophrenia, particularly those homozygous for the Val-COMT allele, were older than controls. Therefore, we treated age and years of education and scores of JART as nuisance variables. Since TBM explores the entire brain (grey matter, CSF space and white matter) at once, the search volume of TBM has a large number of voxels and since our interest was in morphological changes in the grey matter and CSF space, we excluded white matter tissue from analyses by using an explicit mask (Fig. 1F). We used P < 0.001, corrected for multiple comparisons with false discovery rate (FDR) <0.05 as a statistical threshold. The resulting sets of t values constituted the statistical parametric maps {SPM (t)}. Firstly, we estimated the main effects, the genotype effect in total subjects (the Val/Val-COMT versus the Met-COMT carriers) and the diagnostic effect (schizophrenia versus controls) and then the genotype-diagnosis interaction effect was estimated. Furthermore, the effects of genotypes in each group (controls carrying the Val/Val-COMT gene versus controls carrying the Met-COMT gene and schizophrenics carrying the Val/Val-COMT gene versus schizophrenics carrying the Met-COMT gene) were estimated within the ANCOVA design matrix. Anatomical localization accorded both to MNI coordinates and Talairach coordinates obtained from M. Brett's transformations (www.mrc-cbu.cam.ac.uk/Imaging/mnispace.html) and are presented as Talairach coordinates (Talairach and Tournoux, 1988). Since previous studies have demonstrated the association between the Val158Met polymorphism and the dorsolateral PFC (DLPFC), we applied an additional hypothesis-driven region of interest (ROI) method to test regional population effects in the DLPFC. For this ROI analysis, we used the Wake Forest University PickAtlas (Maldjian et al., 2003) within the ANCOVA design matrix for SPM analysis. We set P < 0.05 (uncorrected) with a small volume correction (P < 0.05 within the ROI) to assess grey matter volume changes in the DLPFC (Brodmann area 46, 9 and 8).

Table | Subject characteristics

י מחוב ו החולבר רוומו מרובו והחרה							
	Control Val/Val	Met carriers	Schizophrenia Val/Val	Met carriers	Diagnosis F (P)	Genotype F (P)*	Genotype by diagnosis F (P)
Number of subjects	38	38	61	28			
Gender (M/F)	16 out of 22	14 out of 24	out of 8	13 out of 15			
Handedness (R/L)	36 out of 2	35 out of 3	18 out of 1	28 out of 0			
Age (years)	41.47 (13.42)	39.26 (10.6)	45.98 (15.29)	43.05 (10.57)	3.633 (0.059)	1.7 (0.195)	0.21 (0.647)
Education (years)	17 (3.16)	16.06 (2.57)	12.67 (2.43)	13.33 (3.31)	30.855 (<0.0001)	0.047 (0.828)	1.61 (0.208)
Full scale IQ (WAIS-R)	113.42 (12.05)	108.93 (13.58)	80.69 (17.68)	88.958 (22.08)	57.9 (<0.001)	0.29 (0.59)	3.41 (0.068)
JART	78.8 (10.45)	75.42 (13.65)	54.69 (20.74)	62.25 (27.06)	23.366 (<0.001)	0.292 (0.59)	2.014 (0.159)
Wechsler Memory Scale—Revised			•	•	•		
Verbal memory	111.78 (15.001)	111.061 (12.89)	78.0 (21.623)	81.33 (18.57)	86.93 (<0.001)		0.354 (0.553)
Visual memory	112.1 (8.51)	106.55 (11.99)	74.78 (24.32)	83.29 (20.613)	85.51 (<0.001)		4.605 (0.03)
General memory	113.31 (13.92)	110.85 (12.22)	74.43 (21.3)	79.33 (19.14)	111.93 (<0.001)		1.226 (0.27)
Attention/concentration	104.47 (13.25)	102.94 (16.51)	87.79 (19.09)	92.54 (17.38)	16.08 (0.001)		0.866 (0.14)
Delayed recall	111.88 (15.46)	112.48 (10.08)	77.07 (20.92)	81.21 (19.19)	99.74 (<0.001)		0.284 (0.59)
WCST (preservative error)	2.5 (3.89)	3.14 (3.90)	12.08 (11.54)	8.52 (10.63)	24.5 (<0.0001)	0.93 (0.34)	1.93 (0.17)
Digit span	11.12 (3.25)	10.77 (3.34)	7.83 (3.93)	9.09 (2.74)	12.165 (0.0007)		1.28 (0.261)
Onset age			25.38 (10.34)	23.74 (7.992)			
Duration of illness (years)			19.86 (14.93)	18.84 (9.8)		0.77	
Duration of hospitalization (months)			66 (153.41)	59.59 (91.18)		0.86	
Duration of medication (years)			12.86 (14.21)	16.4 (9.89)		0.29	
Drug dose of typical antipyschotic drugs			617.9 (720.18)	700.38 (752.67)		69.0	
(mg/day, chlorpromazine equivalent)							
Drug dose of atypical antipyschotic drugs (mg/day, chlorpromazine equivalent)			282.3 (428.29)	340.23 (482.19)		99.0	

Mean (standard deviation); WAIS-R = Wechsler Adult Intelligence Scale—Revised; JART = Japanese version of National Adult Reading Test; WCST = Wisconsin Card Sorting Test.

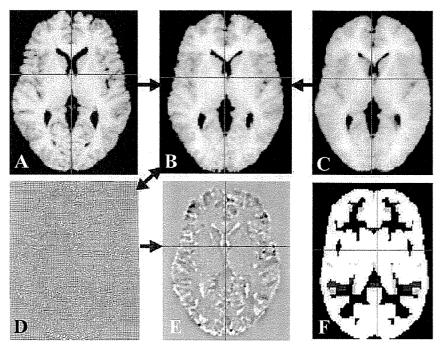


Fig. I Steps of analysis for tensor-based morphometry. An example is shown for a single subject in one axial slice. The single object brain (A) has been corrected for orientation and overall size to the template brain (C). Non-linear spatial normalization removes most of the anatomical differences between the two brains by introducing local deformations to the object brain, which then (B) looks as similar as possible to the template. Image (D) shows the deformations applied to the object brain by a deformed grid. Statistical analysis can be done univariate using the local Jacobian determinant as a derivative of the field (E). An explicit mask image (F) was used to explore morphology in the grey matter and CSF space.

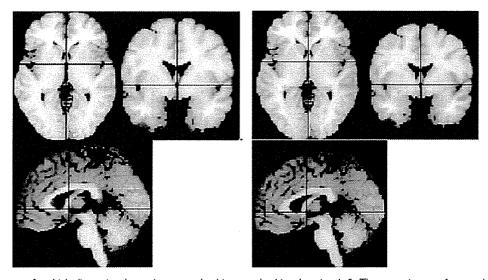


Fig. 2 Mean images after high dimensional warping control subjects and schizophrenics. Left: The mean image of warped MR images obtained from 76 controls. Even after averaging, the mean image is not blurred. Right: The mean image of warped MR images obtained from 47 schizophrenics. The mean image of schizophrenic looks similar to that of controls.

Results Behavioural data

Patients had a lower full scale IQ, measured by the Wechsler Adult Intelligence Scale—Revised, than controls. They also had a lower expected premorbid IQ measured by a JART,

lower scores of Wechsler Memory Scale—Revised and demonstrated poorer performance of working memory measures such as the number of preservative errors in the WCST and digit span (Table 1). No genotype or genotype-diagnosis interaction effects were found in working memory measures